



季節外れの雪にも負けず、
花たちは春に備えています。

令和 7 年

3 月 2 4 日 (第 2 2 号)

学校長 村松 章史



卒業生の未来に幸あれ

第 78 回卒業式



3 月 12 日に第 78 回卒業式を行い、43 名が卒業しました。緊張の中にも堂々とした姿の 3 年生。校長から全員に卒業証書を授与しました。1. 2 年生からは温かい感謝と応援のメッセージがあり、ステージに立った 3 年生はしっかりとそのメッセージを受け取っていました。3 年生の「別れの言葉」の中には、3 年間の印象的な場面が織り込まれ、その一つ一つを思い出しながら、あふれる涙と共に最後のメッセージとして伝えてくれました。

時代の流れや変化が早く、5 年先、10 年先を見通すことが難しいと言われる現代を生き抜いていくことは簡単ではないかも知れません。しかし、市川中の校歌の歌詞にある「誇り」

「望み」「願い」を大切に、次のステップでもたくましく成長して行ってほしいと思います。「人は皆一人だけれど一人きりではない」、多様な人々と「敬愛」の心で協働しながら、未来を拓いて行ってほしいです。

※卒業生は全員がそれぞれの進路を実現させました。活躍に期待すると共に、未来に幸あれと願います。



令和 6 年度 修了の日にあたり

を感じました。4 月からは 50 名を超える新入生を迎え、立場は今年とは大きく変わります。卒業生の姿を見送った 1. 2 年生には、1 年後、2 年後に目指す目標があることと思います。どうか、その目標に向けて努力を続け、目標とされる先輩になってほしいと思います。

3 年生がたくましく成長したことはもちろん、1. 2 年生の皆さんも同様で、私はその成長ぶりに驚くと同時に大きな喜びを感じています。卒業式で、卒業生に送ってくれたメッセージを聞き、卒業生がその思いを心から受け止めてくれた表情を見たとき、1. 2 年生の成長と、身につけてきた力





市川中学校オリジナル SDGs 18 番目の目標、「毎日を幸せと思えるように」。何ををもって「幸せ」と捉えるか、それは一人ひとり違うかも知れませんが、学校が楽しいと思える場所であること、来たいと思える場所であるよう、生徒会活動も、そして教職員もそこを目指しています。

ですが、いつも穏やかに過ぎる時間ばかりではありません。学習や人間関係において、悩みや不安を感じたり、人のことが嫌いになったり、自分のことがいやになったりすることもあります。言葉を選んだり、人に気を遣ったりして疲れてしまうこともあるでしょう。

う。そんなとき、誰もが「一人」ですが、「一人きり」ではありません。人に話を聞いてもらい、時に仲間の思いを聞いてあげながら、誰かの力を借り、自分も誰かを助けながら生きていくのです。つまりきながらも、立ち止まって考えていけば、必ず道は拓けます。

私が、生徒や教職員に伝えてきたのは「敬愛」です。人は、考えが全く同じ人などいません。それぞれが個性という違いを持った存在です。同じ考えの人が集まっても、考えは広がりにくいものです。むしろ、違いがあるからこそ、そこにいろいろな考えが存在し、新しいアイデアが生まれ、道が拓けると言うこともできます。



おそらく、「前に進む」とはそういうことで、その原動力は、多様な人々と違いを認め合い、協力し合うことにあると思います。そして、その「違いを認め合う」ということが「敬愛」の心であると思います。「人のことを大切に思うからこそ、自分も大切にされる」とも言えると思います。

令和7年度のスタートは目前です。生徒たちの、先輩としての、最上級生としての努力、そして「敬愛」の心に期待します。

保護者の皆様におかれましては、1年間、本校の教育活動へのご理解と、たくさんのお力添えをいただき、心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

4月からは教職員も新しい体制となり、新たなスタートを切ります。保護者の皆様とはよきパートナーとして、今後も連携した教育活動を進めていきたいと思えます。

来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

